

令和元年度第2回尼崎市地域ケア会議代表者会議 議事まとめ

1 各団体から頂いた意見

【医師会・あまつなぎ】

- ・理髪協会の専門職に協力してもらい、スキル評価。
- ・理髪業界は高齢化しているため、働きかけることも重要。
- ・理容専門学校生徒へのレクチャー。
- ・安全剃刀を利用してもらう。
- ・常連客からの引退アドバイス。

【歯科医師会・歯科衛生士会】

- ・衛生状態が悪化すると歯肉炎のリスクがあるので、把握が必要。
- ・団体テーブルの全員が事業継続してもらいたい意見。
- ・誰かの見守りが必要。
- ・認知症カフェのような認知症 barbar にする。

【薬剤師会】

- ・仕事を継続してもらう場合、公衆衛生の視点による滅菌アドバイス。
- ・仕事を辞めてもらう場合、新たな生きがいの提供。
- ・服薬の状況を確認し、専門医につなげる。

【訪問看護ステーション協会】

- ・リスクがあるが、危険がないように継続してもらいたい。
- ・刃物を使わずにシャンプーのみでの継続。高齢者の方にも体は洗えるが髪の毛が洗えない人もいる。認知症カフェのように。
- ・免許の更新はないと思うが、一定年齢での技術確認も必要では。
- ・看護師としても、爪切りができなくなるなど、他人事でない。

【居宅介護支援事業連絡会】

- ・作業所・ボランティア・人形のカットで後輩に指導。
- ・保険がないのは。

【CM協会】

- ・会社員の定年と違う自営の引退。本人が見極められないときに、周囲の人がどう思うか。
- ・セルフサービスの理容（客にしてもらう）。

令和元年度第2回尼崎市地域ケア会議代表者会議 議事まとめ

【ヘルパー協会・あまつなぎ】

- ・就労継続の場合、認知症カフェのような感じで、支援者のネットワークとして支える。
- ・ヘルパーの時間に針仕事を見守った。
- ・主治医から強く言ってもらったり、同職種に意見を言ってもらう。

【尼崎 PT・OT・ST 連絡会】

- ・継続してもらう場合、作業工程の分析のうえ、業務遂行の手順の提案。手順を表にして客にサポートしてもらう。
- ・水が出るところをお湯のみにする環境調整。
- ・通所系サービスの利用で脳の刺激・体重のコントロール。
- ・床屋スペースを集う場に変換。
- ・カット方法の講座開催。
- ・バリカンなど安全性の高いものを使い、野球部員に丸刈り。

【民生児童委員】

- ・身体的な心配がなければ継続してもらいたい。認知症も進む不安もある。
- ・本人に自覚がないので、国の規制（運転免許などの試験）が必要。
- ・地域で出入りしている人を見守る。

【生活支援コーディネーター（社会福祉協議会）】

- ・他のやりがい作り。
- ・客では集い場にする。
- ・有償ボランティアとしての活動。
- ・支援者が必要なので調整が多数。

【認知症疾患医療センター・南北保健福祉センター（地域保健課）】

- ・見守りの中で、洗髪・櫛のみでの営業。
- ・理容学校、地域の集う場などでの活躍。

【地域包括支援センター】

- ・感染症の対策をして事業を継続する。
- ・本人の生活状況・就労状況を見守りたい。

【兵庫県立尼崎総合医療センター認知症疾患医療センター・見野先生】

- ・認知症の確定診断は大切。認知症疾患医療センターは鑑別診断後の専門医療相談もしている。

令和元年度第2回尼崎市地域ケア会議代表者会議 議事まとめ

- ・鑑別診断時に見極めるが、アルツハイマー型認知症は短期記憶が徐々に落ちる。
- ・個人タクシー協会に認知症が増えて、目的地までたどり着けないことがある。理容師の就労が継続できるように考えていくことが必要。

2 各地区で出てきた意見

【中央地区】

- ・総合老人福祉センターでは男性料理教室がある。
- ・武庫地区のURでは喫茶がある。
- ・商店街や消防団にコミュニティがあり、集まれる場になっている

【大庄地区】

- ・教会で炊き出しをしている。そういったところで理容技術を活かせられないか。
- ・受け入れ意識が高いので、受け入れてくれるのではないか。
- ・少年野球のバリカン使用の丸刈りのボランティア等に問い合わせれば可能性があるのではないか。

【南部混合チーム】

- ・大庄地区の「おもしろ広場」に畑があり、作物を皆で収穫し食べたりできる。
- ・地域の祭りが下火になっている。子供から高齢者までが関われるイベントが必要。
- ・下校時の見守り、学童でのボランティア。

【北部混合チーム】

- ・博寿苑で喫茶店をやっている。
- ・認知機能のレベルの見極めが大事⇒今回の事例は空間把握が難しい。
⇒やめさせるのも優しさでは。
- ・施設の中でマニキュアやメイクのボランティアとセットでカットも。
- ・市内の学生に声をかけて、見守りや同行ボランティアを依頼しては。

【園田地区】

- ・動作の確認 手の震えなどで作業が危険かどうかは動画でも確認できる。
- ・免許返納等に関して警察の協力でうまくいった事例があった。
- ・昔からをよく知っている民生児童委員と一緒に協力できる。

令和元年度第2回尼崎市地域ケア会議代表者会議 議事まとめ

3 今日の反省会（アドバイザー会議）

「認知症の人が地域で役割を持ち、活躍するために必要な資源・サービス」

1. 認知症の人ができること（例：洗髪、肩たたきなど）を発揮できる場

- ・まだ仕事ができる軽度認知症の人の活躍の場は必要。そのため、老人福祉センターを活用した場を検討している。
- ・精神疾患がある人には作業所があるので、認知症の人にも作業所があってもいいのでは。
- ・喜楽苑が今日の事例のような人にお手伝いしてもらえるかもと言っていた。
- ・今回の事例では洗髪だけはできる可能性もあり、行政がそういう活躍の場を考えるべき。
- ・経験したことは体が覚えているが、空間把握能力がないと危険。
- ・明石市は小学校区に1か所の子ども食堂がある。働いている人は高齢者で認知症の人でも活躍できる。
- ・有料老人ホームのスタッフの補助として高齢者を活用できないか。
- ・雇用にすると難しい。ポイントなどで謝礼を設ける。

2. 認知症の人がデイサービスで役割を持ち、働ける場

- ・軽度認知症の人だけが集まり、デイサービスの一環として作業を場があれば。
⇒軽度認知症のデイサービスはない。
- ⇒要支援だけが対象の温泉付きのデイサービスはある。
- ⇒東京都町田市では洗車、京都府宇治市ではお茶摘みのデイサービスがある。

3. 認知症の人の作業所までの送迎

- ・時間通りに来るかわからないと雇う側のハードルとなるため、認知症の程度にもよるが送迎は欠かせない。

4. 認知症の多角的な相談機関

- ・認知症の確定診断とは別で多角的に相談する場所ないか。
- ・運動機能的の部分でも気軽に相談できる場所がないか。
- ・生活自立度だけでない指標も必要でないか。

5. 専門職団体内での支援

- ・会社勤めの人には周りの目があるが、個人事業主にはそのような目がない。市の検診の場を活用できないか。

令和元年度第2回尼崎市地域ケア会議代表者会議 議事まとめ

- ・職能団体の中でも高齢化は問題になっているはず。免許の資格喪失や、更新試験が難しい場合、団体として保険を掛けるしかない。団体としてサポートする仕組み。